

月刊しばうら

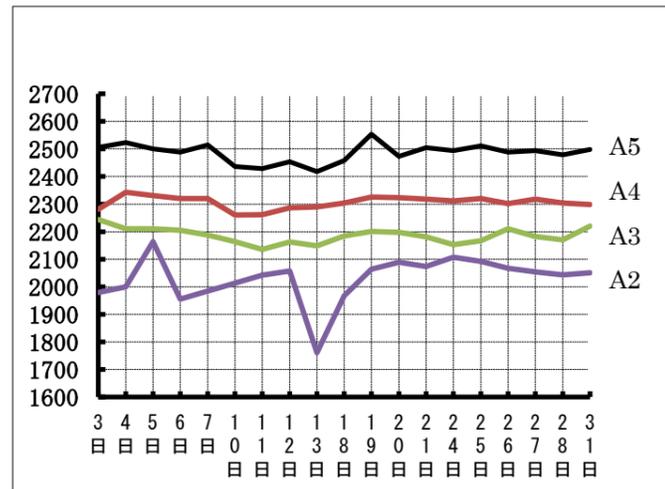
2015年 9月号

大動物事業部

< 8月の相場動向 >

8月の牛枝肉相場は、引き続き供給不足などから高値相場維持も、和牛去勢牛では前月比でA5が5円安、A4が18円高、A3が20円高、A2が30円高と保合い。一方、交雑去勢牛はB4が27円安、B3が13円安、B2が4円安とわずかに下げた相場となった。8月上旬は旧盆手当てで枝肉相場の上昇は予測の範囲であったが、旧盆明け後も補充手当て買いが動き、相場を維持する展開となった。

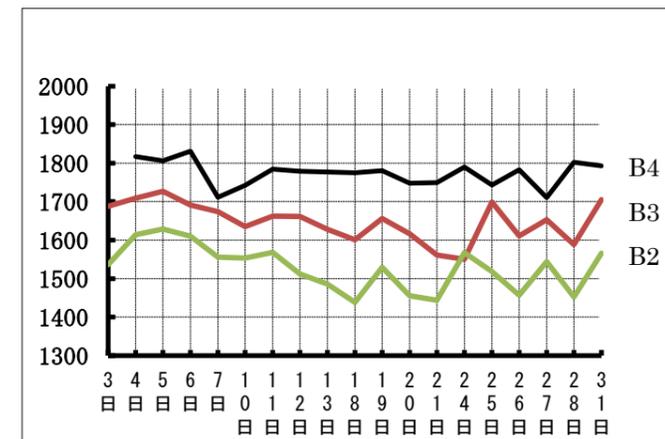
和牛去勢 日別相場表 (8月)



和牛去勢 (月平均)

A5 2,490円 (前年同月比 113.6%) (前月比 99.8%)
 A4 2,311円 (" 122.5%) (" 100.8%)
 A3 2,186円 (" 126.5%) (" 100.9%)
 A2 2,040円 (" 129.4%) (" 101.5%)

交雑去勢 日別相場表 (8月)



交雑去勢 (月平均)

B4 1,774円 (前年同月比 126.3%) (前月比 98.5%)
 B3 1,648円 (" 129.3%) (" 99.2%)
 B2 1,510円 (" 131.0%) (" 99.7%)

乳牛去勢 (月平均)

B3 - 円 (前年同月比 - %) (前月比 - %)
 B2 870円 (" 106.5%) (" 81.3%)

< 9月の牛肉輸入量予測 >

単位：t

輸入牛肉通関量	7月	前年同月	前年同月比	
フローズン	豪州	17,010	13,288	128.0%
	米国	9,201	9,178	100.3%
	その他	2,287	3,601	63.5%
合計	28,498	26,067	109.3%	
チルド	豪州	10,197	10,809	94.3%
	米国	7,009	8,975	78.1%
	その他	702	917	76.6%
合計	17,908	20,701	86.5%	

出典：食肉速報

財務省の貿易統計による7月の牛肉通関量は前年同月比0.8%減の4万6,406tであった。前月比では約7,000頭の増加となっている。農畜産業振興機構予測による9月の輸入牛肉入荷量は、4万400トン(前年同月比25.6%減)のうちチルドが1万7,000トン(同17.0%減)、フローズンが2万3,400トン(同27.6%減)と予測している。同機構は7月～9月の牛肉輸入量の動向によると、チルドは現地相場高や円安を背景に、フローズンは在庫量が多いことを背景にそれぞれ前年を下回るとしている。

< 9月の全国出荷頭数予測 >

農水省が発表した平成27年上半年のと畜生産頭数は、前年同期比2.4%減の53万2,035頭であった。品種別にみると、和牛は22万5,819頭(3.0%減)、乳牛は18万7,975頭(1.1%減)、交雑種は前年度の増加から減少に転じて10万9,003頭(3.4%減)となっており、昨年から続いている減少傾向に歯止めは掛かっていない。食肉流通統計による7月の成牛と畜頭数は、前年同月比3.3%減の9万8,196頭で、品種別では和牛が4万4,934頭で3.6%減、交雑種が1万8,699頭で7.0%減、乳牛去勢は5.5%減の1万7,703頭であった。

農畜産業振興機構による9月の全国の肉牛と畜頭数は前年比7.4%減の8万8,700頭の見込み。内訳でみると和牛が6.7%減の3万7,900頭、乳用種が5.7%減の3万1,800頭、交雑種が11.5%減の1万7,400頭と減少との予測。9月の東京食肉市場のと畜予定頭数は、7,550頭前後の予定。

< 9月の牛枝肉相場見通し >

9月の牛枝肉相場は、大型連休を控え、長期にわたる休市などの影響により需給はタイトで全体的には強含みの相場動向が予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,400～2,500	B4	1,700～1,800
A4	2,250～2,350	B3	1,600～1,700
A3	2,100～2,200	B2	1,500～1,550
A2	1,950～2,050		
乳牛去勢			
B3	1,150～1,200		
B2	1,050～1,150		

小動物事業部

食肉流通統計によると、7月の全国と畜は132万2,752頭(前年同月比99.1%)となり前年より減少した。また、7月分の豚肉通関実績は、総量で7万2,461トン(前年同月比80.8%)と前年より大きく下回った。うちチルドが3万1,166トン(同125.7%)と増加した。内訳は米国が1万9,323トン(同124.0%)、カナダは1万836トン(同132.3%)と増加、メキシコが1,004トン(同99.2%)と減少。フローズンは、4万1,295トン(同63.4%)と前年を大きく下回り、デンマークが1万594トン(同65.8%)、米国が6,324トン(同43.2%)、カナダが3,420トン(同70.8%)、メキシコが4,941トン(同101.5%)であった。

< 8月の豚取引の推移 >

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
3日	56,300	656	640	693
4日	59,100	682	671	663
5日	56,300	687	676	601
6日	60,300	689	669	599
7日	60,800	685	658	706

上旬の全国と畜頭数は猛暑の影響もあり、6万頭を割り込む日が続いた。当市場も予定出荷頭数を下回るような状況が続き、平均650頭と前年を大きく下回る上場頭数であった。旧盆の手当てや、輸入品の通関遅れもあり、需給はタイトな状況が続き、上物価格は650～680円と高値で推移した。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10日	65,400	700	653	556
11日	66,600	639	583	985
12日	62,000	566	549	863
13日	42,200	580	552	911
18日	61,000	630	593	822
19日	58,000	620	601	561
20日	60,800	625	604	609
21日	58,900	646	627	731

中旬の全国と畜頭数も平均6万頭であった。当市場は、平均で630頭の上場となり前年を大きく下回った。輸入品もカナダ産の通関遅れの影響で在庫がひっ迫している状況で引き合いが強かった。全国と畜も少ない事から、盆前手当てでローズ、カタローズは引き続き堅調に推移した。盆明けも全体的に荷余り感はなく相場はもちあつたが、スソ物は学校給食もないことから動きが悪かった。上物相場は560～700円と幅のある相場展開になった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24日	57,700	627	603	726
25日	55,200	644	613	774
26日	55,200	618	592	628
27日	60,500	621	594	718
28日	59,600	599	580	766
31日	57,600	598	585	740

下旬の全国と畜頭数も6万頭を割り込み、平均730頭と前年を下回る上場となった。全体的に荷動きも落ちていたものの、再開する学校給食の手当てもありスソ物、また、秋口に向けバラも良化してきた。相場は堅調に推移して上物価格600～640円となった。

< 9月の豚枝肉相場見通し >

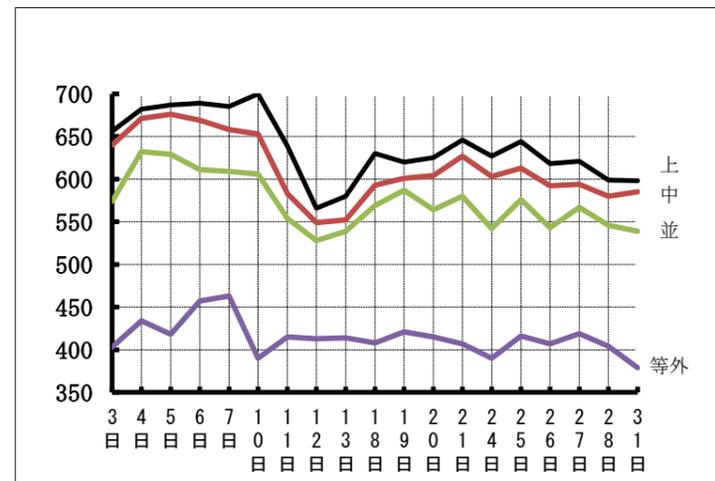
農水省による9月の全国と畜頭数は、135万4,000頭(前年同月比101.0%)と予測しており一日当たりの頭数は約6万7,700頭である。当市場の9月の集荷予定頭数は約1万6,000頭となっており、一日当たりでは約800頭の見込みである。

一方、農畜産業振興機構による9月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万6,500トン(前年同月比105.4%)の予測となっている。内訳はチルドが2万7,500トン(同127.3%)、フローズンは3万9,000トン(同94.0%)の予測である。

また6月における豚肉推定在庫量は、国産品が1万5,294トン(前年同月比71.5%)、輸入は17万3,417トン(同103.9%)となり合計18万8,701トン(同100.2%)となった。推定出回り量は14万356トン(前年比114.7%)で、前年を上回った。うち国産品は7万2,163トン(同107.2%)輸入品は6万8,193トン(同123.9%)であった。国内生産量は7万758トン(同103.9%)と9か月ぶりに前年を上回った一方、輸入量は6万4,516トン(同97.4%)と7万トンを下回った。

このような状況の中、9月は出荷頭数が極端に増加してくるとは考えにくく、また、シルバーウィークが5連休ということもあり例年以上の行楽需要が見込まれる。よって、上旬は手当てで上昇、下旬には相場が緩んでくるものの上物580円前後、中物550円前後と秋口に入っても堅調な相場と予測する。

豚日別相場表 (7月度)



出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、東京食肉市場では防疫体制を強化しております。来場の際における生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いたします。

東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
 TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127
 URL <http://www.tmmc.co.jp/>